

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4790300034
法人名	医療法人 志誠会
事業所名	グループホーム あおば邸
所在地	〒904-2222 沖縄県うるま市上江洲708番地の1 (電話) 098-974-9770
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(H20年10月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 20 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	水道光熱費(日額)340円 日常生活費(日額)300円
敷金	0		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(10月26日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名			要支援2	名
年齢	平均 78.9 歳	最低	64 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沖縄県立中部病院 スマイル歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは緑の多い静かな住宅地にあり、隣接する同法人施設とも自由に行き来できるよう連携や利用者の動線に配慮された造りになっている。開設に向けて情報を収集し洗濯室など利用者と職員が協働できる環境造りへの工夫がいたるところに見られる。ホーム内は採光もよく開放的でテラスも施しプランターを置き、利用者は機能訓練を兼ねて花の水やりを楽しんでいる。開設して間もないため地域との関わりは少ないが、隣の方が毎日のように訪問し利用者との会話やレク体操を楽しんでいる。利用者の家族の面会が多く職員は利用者や家族の意向などを会話の中で把握している。夜間や緊急時には同法人が連携して対応しているので利用者や家族、そして職員の安心に繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今度が初めての外部評価となる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、評価の意義と項目について学んだ。自己評価項目に沿ってサービスを振り返ることができ、今後取り組んで行く課題(地域への広報など)や記録、書類の整理の重要性を実感している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はこれまで2回(7・9月)開催されている。運営推進会議において事業所からはサービスの取り組みや活動について報告し、運営推進委員から利用者のドライブに市内史跡巡りを提案されるなどの意見がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の家族へのアンケートで意見の把握を試みるなど工夫している。家族はアンケートにもきちんと署名され、また面会時や病院受診時などにも直に管理者や職員に意向を伝えるのでその都度対応したり、同法人内サービス向上委員会で検討するなどし反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	住宅地域にあるが道路側に開放部分が少ないので暮している人の状況が見えない。運営推進会議・委員の自治会長の協力を得て地域の行事に積極的に参加したり、いつも訪問されている方を介して隣近所の方々に来訪してもらう等利用者が交流のできる機会を設けてほしい。地域の子供達が下校時に利用者と一緒に時間を過ごせるよう道路側テラス部分の活用を試みてほしい。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『家』で生活する』をテーマに職員全員で考えてつくられた。地域の中で、その人らしく過ごせるよう共に笑い、共に楽しく協力して暮せる居心地の良い「家」、職員だけではなく家族にも協力を呼びかけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は利用者への挨拶も明るく大きくかわすことで、理念である「共に笑い」をより一層楽しい雰囲気になれるよう工夫し実践している。利用者の状態を把握した上で協働の場面を設け、利用者の自信と次回への挑戦を促がしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣の方が毎日のように訪問し利用者との会話やレク体操を楽しんでいるが、地域の行事などへの参加は少ない。	○	利用者が暮らす「家」を地域に開放し、いつでも気軽に訪ねて来られるよう運営推進会議・委員の自治会長や民生委員・児童委員を通して、自治会行事への参加や広報に努めてほしい。また、ホーム入り口のテラスを利用した地域の子供達との下校時の交流も試みてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組み、評価の意義と項目について学んだ。自己評価項目に沿ってサービスを振り返ることができ、今後取り組むべき課題(地域への広報など)や記録・書類整理の重要性を実感している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は発足後2回開催され、これまでは事業所側からの報告に留まっているが、利用者のドライブ先の提案を運営推進会議・委員から受けるなど、定期の会議において委員間での活発な意見交換が期待できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議・委員の市町村担当者とは会議において情報交換している。	○	地域密着型サービスとして市町村担当者を事業所の報告や相談など情報交換の窓口とし、利用者や家族が安心して介護保険関係の相談ができるよう連携してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の様子や状態については面会時などに報告し、緊急時にはその都度電話で連絡している。面会の少ない家族へは電話や広報紙を利用し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族の意向を把握する為アンケートを実施し、相談内容によっては同法人内サービス向上委員会で検討対応している。家族からの意見は面会時に直接かわされることが多い。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はこれまでに1回あり利用者への配慮から報告はされなかった。職員の異動については利用者や家族へきちんと説明し、利用者との信頼関係が継続できるように取り組みを考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は同法人内研修への参加や事業所内勉強会を定期的実施している。職員が外部研修へ積極的に参加できるよう、情報を事前に収集し勤務調整など図っていく予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所開設前から他の事業所を見学し、現在も情報交換している。グループホーム連絡協議会へは未だ加入していないが、定期の開催に参加し情報を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は同法人内からの入居が多く、事前に見学もあるので職員とも顔なじみになっている。在宅から入居の利用者も家族の協力を得ることもなく、職員との関係が築かれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に得意とする調理の味付け、米とぎ、下ごしらえを担当してもらったり、洗濯物を干したり、たたみだり利用者に参加できる場面づくりを工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	栄養管理を要する利用者の飲食の要求にもきちんと対応し、その後の食事で調整するなど工夫し利用者に満足感を味合わせている。利用者の様子を観察し、表情や態度から意向をくみ取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の家族の面会時やかかりつけ医受診の際を利用し意向を把握し、計画に反映させるよう作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	事前に職員間で介護計画の内容について意見交換し、利用者や家族を交えて現状を報告し見直しに繋げている。定期的見直しや入院後のレベル低下などその状態に応じた見直しにも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の故郷への帰省や旧盆の帰宅などを積極的に支援している。緊急時の病院受診にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医受診を家族の協力で支援している。緊急時には同法人陽光館医師が往診し、時には情報提供を作成して専門医受診に繋げ、夜間時の対応にも同法人の連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として重度化や終末期について取り組んでいない。	○	地域密着型サービスとして今後重度化や終末期への期待を考慮し、同医療法人と連携して利用者の尊厳を含めた方針などを検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は新聞を読んでいる利用者へは耳元で声掛けし内容を聞いたり、入浴を待っている利用者へは明るく声掛けし誘導するなど状況に応じ支援している。利用者の記録など個人情報についてはきちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は午前のレク体操以外は、マスゲームや来訪者との会話を楽しんだり、職員も声掛けしながら一緒に過ごしている。居室での時間を好まれる利用者にも食事やおやつ時間は一緒に楽しめるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同法人の管理栄養士が作成した献立表を基に、職員が入居者の好みを取り入れ献立表を作成し、利用者とは職員で協働して調理している。利用者の好みや状態に考慮した調理方法にするなど対応し、調理台や流し台は対面式で利用者が職員と向かい合って作業が出来るよう工夫されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は同性介助を基本とし、利用者の意向に沿って支援され、毎日・2日に1回・午後2時と多様な希望に対応し支援している。浴室内には長いすに腰掛けた状態で入浴ができるよう工夫が施されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自ら米とぎを担う利用者、共有空間の手すりを拭く利用者、洗濯物たたみは利用者全員が参加、広報担当の利用者、機能訓練を兼ねたプランターへの水やりを頑張る利用者など思い思いの活動を職員は見守りながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員はほぼ毎日食材の買出しに利用者を同行させ、買出しが1日2回の時にも利用者を代えて同行させている。利用者と近所を散歩しながら民家を訪問することもある。同法人の協力を得て遠出を企画し、家族の参加を呼びかけ利用者とドライブを楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は「鍵をかける」ことは拘束に繋がると理解している。利用者の様子を観察しながら声掛けし、一緒に戸外を散歩することもある。開放的な玄関は日中鍵は掛せず、職員が帰宅の際(午後7時)全体に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所独自の災害マニュアルを作成しているが、消防訓練の実施はない。	○	災害時は同法人との連携のみならず、地域との協力が図れるよう運営推進会議・委員にも提案し地域との交流を深めるなど広報に努めてほしい。消防訓練計画が年内に予定されている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立表を使用し、利用者の体重・水分・塩分・糖分チェックを実施している。利用者は1回の食事摂取量が少ないが特に体重に関する問題もなく、2回の間食で摂取量を補う工夫を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な玄関や共有空間は採光もよく明るく、台所を中心に食卓テーブルやソファが配置され、利用者は新聞を読んだりテレビを見たり思い思いに過ごしている。浴室や洗濯室、トイレには利用者や職員の利便性に配慮された造りが見られる。室内と室外への動線がフラットになっており、利用者は自由に入出りができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の入り口には玄関や敷地内に施されたデザインタイルと同様のタイルが1枚掛けられアクセントになっている。利用者の居室には共通のベッドと家具が配置され、利用者や家族の持ち込みの物は少ない。	○	居室は利用者が生活しながら家族との共通の話題を懐かしんだり楽しんだりできるよう、家族の協力や工夫で利用者独自の居室作りを試みてほしい。